

アーカイブズ

ARCHIVES

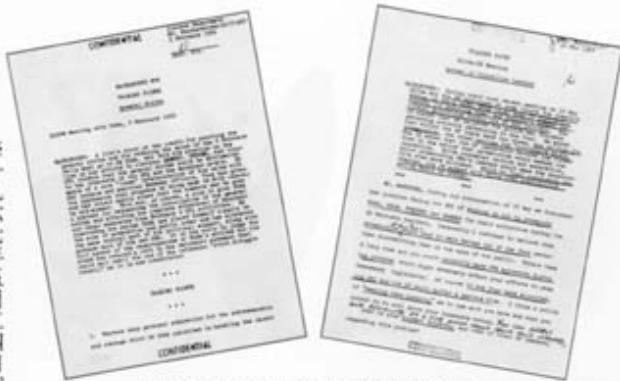
沖縄県公文書館だより 第11号

平成12年3月21日発行



元琉球政府庁舎。1953年(昭和28)4月28日落成。同ビルの3、4階に琉球列島米国民政府が入居。同年5月7日、琉球政府の一部が1、2階に移転。1968年(昭和43)1月8日、米国民政府は浦添市小浜465に移転、その後庁舎ビルは復帰まで琉球政府専用となる。(『沖縄行政機構変遷史』より)

U S C A R 資料公開



[公開されたUSCAR資料から…]

平成十二年二月十五日に沖縄県公文書館において、平成十二年一月までに整理を終了したU S C A R 資料の公開に関して當山館長が、記者会見を行いました。その日のうちにいくつかのテレビ局がこれを夕方のニュースで取り上げ、地元二紙も、翌朝朝刊の一面に大きく紹介しました。

1 U S C A R 資料とは

U S C A R 資料とは、琉球列島米国民政府(United States Civil Administration of the Ryukyu Islands)等が作成した公文書をいいます。一九七二年五月十五日の沖縄の日本復帰をもってU S C A R は消滅し、U S C A R 文書は一部を除いて米国ワシントンDCの米国国立公文書館に移されました。

推定で三百二十万枚の同文書は、現在メリーランド州の、米国国立公文書館に保管されています。

2 U S C A R 資料の公開について

沖縄県公文書館は、平成九年度より国立国会図書館と共同で、U S C A R 資料の収集を行っています。

平成十年十一月には、これまで収集した資料、一 公益事業局、二 宮古・八重山民政官府文書、三 資料の来歴に関する文書等のマイクロフィルム資料を開設しました。

今回は、これまでに収集した約百二十万枚のうち六六九、四六五

枚を平成十一年度分として、以下の部署の資料を公開しました。

各部資料の概要

(1) 高等弁務官室

高等弁務官室の文書は、(a)総務文書、(b)復帰に関するスピーチ、通信、発表、(c)立法に関する文書、(d)参考資料、(e)高等弁務官布令、布告、(f)高等弁務官布令、(g)米海軍政府活動報告などの資料からなります。

(2) 高等弁務官に対する諮問委員会

高等弁務官室の文書は、(a)琉球住民に影響を及ぼす社会的、経済的、その他関連事項に関する実施勧告、(b)スタッフ会議に関する資料からなります。

(3) 復帰準備委員会

復帰準備委員会(米国側)文書は、(a)総務文書、(b)勧告の資料からなります。

(4) 民政官室・副民政官室

民政官室・副民政官室は、(a)民政官室総務文書、(b)副民政官文書、(c)副民政官参考資料、(d)副民政官所管琉球開発金融公社参考資料、(e)写真の資料からなります。

厚生教育局

厚生教育局の文書は、(a)保健教育局文書、(b)公衆衛生課文書、(c)教育課文書、(e)社会福祉課の資料からなります。

(6) 渉外局

渉外局の文書は、(a)渉外局文書、(b)行政法務局文書の資料からなります。

3 今回の公開資料の主な内容について

今回の公開は、前回のそれよりも規模の面で大きいのみならず、高等弁務官府、渉外局といった機密性の高い文書を多く含む部局の資料が公開になりました。その意味で、研究者のみならず広く一般の興味を引く文書が、多数存在していることが予想されます。

もう少し具体的に述べますと、米軍統治時代を知っている世代の県民の多くに記憶されている歴史的事件、たとえば石川ジェット機墜落事故(一九五九年)、コザ暴動(一九七〇年)についての文書等があります。

U S C A R 資料収集の意義は、

*一九六七年五月二十四日、高等弁務官と行政主席会見の会話録には「反対派指導者の逮捕について」の記述がある。

歴史家やマスコミ、あるいは県民の興味を引きそうな文書を選択的に収集することではなく、USCARという行政組織の残した公文書を包括的にを集めていることです。それが、公文書館の資料収集の特徴といえます。USCARは、実質的に琉球政府の上位組織であり、そこでおこなわれた決定は、多くの県民の生活や運命を左右しました。

USCAR資料収集は、行政の行った行為をその証拠となる文書を通じて、県民の知るための権利を保証するために行われているといつてもよいでしょう。

また、沖縄県公文書館で最大のコレクションである琉球政府文書を理解するためにも欠かせない資料なのです。



「琉球政府15年のあゆみ」のポスター
1967年琉球政府総務局広報課発行

4 USCAR部局別資料

- 1 高等弁務官室文書(二十五箱、二箱)
- 2 高等弁務官室に対する諮問委員会文書(十箱、七、八〇二コマ)
- 3 復帰準備委員会(米国側)文書(三九箱、三一、七六〇コマ)
- 4 民政官室・副民政官室文書(十三箱、九、九七〇コマ)
- 5 総務室文書(三二二箱)次回公開予定
- 6 計画局文書(五四一箱)次回公開予定
- 7 経済局文書(二九四箱)
- 8 厚生教育局文書(二九四箱、二九一、〇〇三コマ)
- 9 労働局文書(一九七箱)
- 10 法務局文書(一、三一二箱)
- 11 渉外局文書(三一九箱、三一五、五二〇コマ)
- 12 広報局文書(四〇九箱)
- 13 公安局文書(一七〇箱、八一リール)次回公開予定
- 14 公益事業局文書(一七〇箱、一九二、〇五二コマ)
- 15 宮古・八重山民政官府文書(三〇箱、二四、三〇九コマ)
- 16 資料の履歴に関する文書(一三箱、九、一三三コマ)

(ゴシック体はこれまで公開された資料群)

e. mail (アメリカ通信 1)

一九九七年十二月から二〇〇二年三月までの予定で、国立国会図書館と沖縄県公文書館がアメリカでUSCAR(琉球列島米国民政府)文書の収集に取り組んでいることはご存知の方も多いと思います。

その資料の一部は一九九八年十一月から東京と沖縄で公開が始まります。ここでは、米国統治下のこの貴重な公文書をどのように収集しているのか簡単にご紹介しましょう。「USCARプロジェクト」は、国会図書館と県公文書館から派遣された二人の駐在員の力だけで成り立っているわけではありません。資料の出納、データベースの作成、資料の解体、そして撮影と、フルタイム、パートタイム合わせて十一名のスタッフによって支えられています。作業は、一つの箱が特定の役割を与えられたスタッフの間を流れています。二〇〇二年三月までに完了しなければならないこと、どこかで気を抜くと流れが途絶えてしまうこと

などから、作業場にはいつもある種の緊迫感が漂っています。

データ入力のスタッフは一日八時

間、様々な内容が記された英文の公文書を日付、主題、キーワードなどに気を付けながら丹念に読み込んでいます。文字どおり一日中文書と「にらめっこ」の状態です。

解体スタッフは文書からなるホコ

リやカビ、手の渴きなどと闘いながら文書を傷つけないように一日に数百ものホフチキスやファスナーを丹念にはずしていきます。撮影のスタッフは微妙に異なる紙の色や文字の濃淡を考慮しながら一日に千五百から二千回、カメラのシャッターを切ります。暗室で目の疲れや肩凝りと闘いながらの作業です。

こうして作られる一本のリールや一枚のフィルムは、保存環境さえ整えば、数百年もの間、記録を保存することができます。

(公文書専門員・仲本和彦 米国駐在)

資料紹介

[G・H・カーラー資料]

「琉球の歴史」の著者で知られるジヨージ・H・カー (George H. Kerr 一九一一年一九九五) は、米国ペンシルバニア州生まれで、コロンビア大学で歴史学を専攻しました。東洋史に关心を抱き、第二次世界大戦前から日本・中国・韓国の調査研究に携わっていた彼は、一九五二年に米国民政府の依頼により琉球史に関する調査を行い、「Ryukyu Kingdom and Province before 1945」の報告書をまとめています。それは一九五六年「琉球の歴史」として翻訳出版されました。のちにこれらを加筆して「OKINAWA : The History of An Island People」(一九五八年) も出版しています。これらは、米人が著した包括的な沖縄史として沖縄の歴史・文化を研究する欧米人の必読書になっています。

帰国後、カリフォルニア大学やスタンフォード大学などで歴史を教える傍ら、沖縄の多くの学者と親交を結び、留学生にも物資両面の指導・援助を惜しまなかつたようです。カーラーが研究をするために集めた文

献や論文、写真、彼と交友のあった友人達との間に交わされた書簡や原稿の下書きなどが一九九六年、当館に寄贈されました。

カーラーの資料は、他にもスタンフォード大学や沖縄の図書館及び博物館（八重山も含む）などに寄贈され、ハワイ博物館、カリフォルニア大学、ハワイ大学、大和文化館、シアル美術館など様々な資料保存機関にも収蔵されています。一九五〇年代に集められた書籍の殆どは県立博物館と琉球大学図書館に収められています。その他に、彼が台湾関係者に売却した資料群は、現在、台北の二二八事件平和祈念資料館に收められています。

基礎資料を収集する必要があつたことによるものです。

調査は一九五一年(昭和二六)三月まで継続し、これに基づいて土地所有権証明書が申請人に交付されたのは同年四月一日のことです。これまで土地所有権認定事業は一段落し、これらの「土地所有申請書」原本五、三三九冊は現在、琉球政府文書の一冊として県公文書館で保管されています。

戦後の混乱期に作成されたこれらは、今でも土地をめぐる権利関係を明らかにする証拠資料として利用される重要な文書です。

現在、文書整理はかなり進んでおり、今年度末あるいは年内には利用の個人情報の一部は暫く非公開となります。資料全ての目録を作成し、最終的にはインターネット等で利用に供することを目指しています。

土地所有申請書のマイクロ化終了!

の紙質は悪く、その後も厳しい保管環境にあつたため、劣化の著しいものはまず修復処置を施しました。次に、簿冊に綴られた一枚一枚の地名や地番の並びを確認しながら、小字(原)名を目録情報として採取しました。これは、沖縄戦によつて従来の権利関係を記載していた公団や公簿などのほとんどが焼失してしまつたため、あらためて土地制度の

基礎資料を収集する必要があつたことによるものです。

マイクロフィルム六五七リール(総コマ数六五、五四四)に収められたすべての文書は、五一の市町村名や、小字(原)名をもとにコンピューターで検索することができます。宮古・八重山や渡名喜、栗国、伊平屋、伊是名、南北大東村では、土地所有申請書は作成されていません。原文書はコピー機の光熱に弱いため、閲覧や複写はマイクロフィルムでお願いしています。

県公文書館では、この土地所有申請書の整理業務を開館と同時に当時の県立図書館史料編集室から引き継ぎ、マイクロ撮影を行つてきましたが、この度全て終了しました。文書



整理された「土地所有申請書」

利用者の声

「歴史の一コマに立ち会う」



澤嶋悦子氏

アメリカに住んでいた、一年前の二月ごろ、私は、メリーランド州のコレッジパークにある米国国立公文書館にしばらく通い詰めたことがあります。ワシントンDCの市内からシャトルバスに乗つて約一時間。二月のDCは寒くて、バスを待つ時間が長く感じられたが、閲覧室に入ると、広い部屋いっぱいに研究者たちがいて、文書に没頭し、静かな中にあたりは緊張感と熱気が満ちていた。

古い文書と向き合い、メモをとる

と、申請した文書類を乗せたカートが係員により運び出されてくる。そういう音以外、音はないのだが、研究者たちの真剣さがびんびんと伝わるようであった。私の目的は、米軍統治と沖縄の女性に関する文書であった。目的の文書類は、これといつてめぼしいものは見つけられなかつたが、ドイツにおける米軍の占

領政策、アラスカにおける軍の駐留と地元民とのトラブルなど、米軍の駐留により沖縄で起つた問題と似たようなことを書いた私信、国議員への手紙、民政委員から陸軍省に宛てた要請文などを見て、軍隊の駐留から派生する、類似の問題がいろいろなところで起こつていてことを知つた。

古いこれらの文書を読むと、私自身がその場所のその時期にいたような錯覚を覚えた。本を読むのとは違う臨場感のようなもの、歴史の一コマに自分自身が立ち会つたような、わくわくした気持ちである。



米国国立公文書館

今年の二月の寒い時期、私は、沖縄県の公文書館に通つた。「沖縄の冬も寒いもんだわね」と、まるでウチナーンチュではないような、感想をもらしながら、閲覧室で仕事をさせてもらった。

開館してまだ、長く経っていないが、USCAR(琉球列島米国民政府)や陸軍など軍関係をはじめ、貴重な写真が多く収集され、きちんと整理されていて、よく短い期間に機能的にまとめたものだと感心した。私の目的は、新しく建設される、沖縄県平和祈念資料館の展示用写真をさすことであった。

一九四五年、米軍の上陸、住民を保護した收容所、孤児院、診療所、食糧の配布、ケガの治療を受ける人々、軍作業、マラリア撲滅等々。沖縄戦のさ中、あるいは、終戦直後の人々の生活を撮つた写真を箱から、あるいはアルバムに整理された中から一枚一枚見ていった。

「生きていってよかつたね」そんな言葉がつい、私の口をついて出そうであった。これをフィルムに収めた人々も、もしかしたらあの激しい戦いを生き抜いて来た人たちに、「生きていってほんとうによかつたね。これからも大変だろうけどがんばろうね」、そんな気持ちでシャツターを切つたのではなかろうか等と、考えた。そして、またしても、歴史の一コマに立ち会つている気でいる自分に気がついて苦笑した。

(元県平和推進課嘱託学芸員)



沖縄戦及び戦後の写真資料（ネガフィルムとキャプション付）

—米国国立公文書館より収集した写真資料一覧—

| | |
|------------------------|------------------|
| (1) 米陸軍通信隊写真 | 10冊 |
| (2) 第二次大戦シリーズ | 10冊 |
| (3) 高等弁務官関係写真 | 10冊 |
| (4) 沿岸警備隊写真 | 1冊 |
| (5) 琉球列島米国民政府写真「土地」 | 2冊 |
| (6) 基地建設関連写真 | 1冊 |
| (7) 米海兵隊写真（沖縄関係分） | 2冊 |
| (8) 占領初期沖縄関係写真資料 海軍 | 6冊 |
| (9) 占領初期沖縄関係写真資料 陸軍 | 49冊 |
| (10) USCAR広報局写真資料 1~16 | 104冊 |
| 合 | 計 195冊 (14,135枚) |

こんな催し物が開催されました！

第三回 資料保存講演会

「洋紙資料の保存と修復」

「酸性紙をどうするか？」

去る二月十八日に行われた第三回

資料保存講演会では、講師に(財)元興寺文化財研究所研究員の金山正子氏を迎え、「洋紙資料の保存と修復」で講演会を開きました。県内各地の資料保存機関に携わっている方々や資料の保存に関心のある学生、一般の方々など四五人が参加されました。

内容は、第一部で「資料保存と修復」と題して、紙資料を保存管理していく上での注意点や、スライドを使用した実際の修復作業状況の紹介、ボロボロに劣化した紙資料の修復処置前と修復処置後の事例を紹介していただきました。

参加者のアンケートから・・・

- ・酸性紙の劣化は知っていたが、具体的なことがよくわかった。
- ・物を観察し、記録を残すこと。全体を概観し、対処の順序を考えることの大切さがわかつた。



金山正子氏



講演会の様子

だきました。

最後の質疑応答では、会場から適切な温湿度設定やホッキギスによる錆などの問題についての質問が出されました。どのような質問にも金山氏は丁寧に説明され、最新の情報を伝えようとする熱意が会場の参加者全員に伝わりました。

また、金山氏は、「資料を守つていくためには、できるだけ資料にストレスを与えない事だ」と言われるなど、酸性紙の劣化の問題だけでなく、資料保存について全体的に重要な点を話されたことは大変参考になりました。

- ・酸性紙についてあまり知識がなかったが、わかりやすく、説明していただきて興味をもつた。
- ・実践を含めての講演会だったのでとても良かった。

以上、多くの方々から様々なご意見や感想をお寄せいただきました。

また、今後も実践的な実習を伴った講演会や研修の場を提供してほしいという要望や、保存や修復に要する材料についての問い合わせも多くありました。今後はさらに広報の方等に工夫を凝らし、県民の皆様への普及活動を行っていきたいと思います。

公文書館では、平成十二年一月十九日から二月二日まで、三回にわたりて歴史講座「島々の歴史と文化を訪ねて」を開催しました。

八重山、宮古、久米島の歴史をテーマとした今回の講座に毎回多くの方々が参加し、それぞれの地域の歴史に関する関心の高さをあらためて確認することができました。

講師には、八重山編に沖縄県立芸術大学教授の波照間永吉氏、宮古編に宮古郷土史研究会会長の仲宗根将二氏、久米島編に名桜大学教授の上江州均氏と、それぞれの地域出身の方々を迎え、沖縄本島ではなかなか聞くことのできない島々の歴史を語っていただきました。

受講者の皆さんからは、ひとつの地域について一回だけの講座では十分ではないので、もっと回数を増やしてほしい、別の地域に関してても（例えば、久高島、古宇利島、伊江島、粟国島、多良間島、西表島などの離島をテーマにした）講座を開催してほしいという要望が多く寄せられました。これらの意見を今後の企画に生かしていきたいと思います。

「公文書館歴史講座」

「第四回 市町村 文書担当者研修会」

平成十二年二月十日、公文書館では第四回市町村文書担当者研修会を開催しました。この研修会は、公文書管理に対する理解を深め、日頃の文書管理業務に役立ててもらうことを目的としています。



金城 功氏

村の行政文書担当者や行政文書を歴史資料として扱う地域史編纂に携わっている沖縄地協のメンバーがお互に情報を交換し合っていました。

参加者のアンケートから・・・

- ・行政側（文書を廃棄する側）も、文書の歴史的価値を判断する力を身につけなければならないと痛感した。

- ・金城功先生のお話は、市町村においても、文書担当者が認識しておかなければならないことである。

- ・県公文書館における現場との調整内容や収集・廃棄基準などの事例が聞きたかった。

- ・情報公開にむけて必要なので定例で月一回の市町村文書担当者の研修会を行ってもらいたい。

- 以上、参加者の率直なご意見をお寄せいただきました。今後も、皆様の意見を取り入れた研修会や講演会を計画していくと思います。

沖縄大学教授の金城功氏による講演「琉球政府文書の収集と整理について」や、当館の公文書専門員による報告「県における公文書の管理について」、館内見学などのプログラムに、離島を含む二四市町村から二六の方々が参加されました。

また、午後三時からは同じ会場で、沖縄県地域史協議会（那覇市歴史資料室の照屋正賢氏による「公文書と那覇市史編集」と沖縄県十市文書事務協議会（神奈川県立公文書館の石原一則氏による「現代公文書の評価・選別方法について」）の報告があり、各地から集まつた市町



研修会の様子

イギリスの公文書館探訪（二）

エセックス州立公文書館

Essex Record Office

前回ご紹介した英國国立公文書館に引き継ぎ、今回は、エセックス州立公文書館を紹介します。



右から筆者、R.マーティン氏、K.ディーン氏

エセックス州立公文書館（略称ERO）は、ロンドン北東に位置するエセックス州のチャーチルムスフォードという街にあります。一九三八年に開館した州立では最も古い公文書館の一つで、今年三月には六〇年余にわたって親しまれた旧館に別れを告げ、新設の公文書館を開館することになりました。

私がここに滞在した八月は、その移転準備が急ピッチで進められる時でした。EROのコンサベーター（保存修復専門職）、K.ディーン氏とR.マーティン氏も、資料や機材の運搬準備に大忙しでしたが、移転に際して特別に行われる作業やプログラムをぜひ実践で学びたくて研修を申し出たところ、快く受け入れて

くだり、資料保存の理念や技術を色々な角度から教えてくれました。

このEROの資料保存業務を二〇年以上もの間支えてこられたお二人は、書庫管理から保存処置、修復、製本まで、資料保存に関することなら何から何までこなすベテラン・コンサバーターです。丁度この時期は新館への移転に向けて、資料を保護するための保存容器の購入や作成をメインに、アーキビスト（記録史料専門職）と共に配架計画等を練っていました。

EROでは、新館の書庫や作業部屋はコンサバーターが自ら加わって設計してきました。ディーン氏らは作業部屋のイメージを具体化するために模型を作り、修復や製本作業の動線を予想した効率的な機器類の配置を考えています。また、将来職員が増えることや、研修生の受け入れ等を視野に入れた柔軟性のある作業部屋を築こうとしています。建設現場を見学した時には、沖縄県公文書館の開館前を思い出し、同時に、最新式の施設には当館にも取り入れたいアイディアをたくさん発見しました。今度は、新しい館でお二人の仕事ぶりを拝見するのが楽しみです。

（修復士・大鷗ゆかり）

催し物の案内

講演会

「島津家久と琉球支配」

日時：平成十二年三月二二日(火)

午後六時半～八時

講師：上原兼善氏(岡山大学教授)

場所：沖縄県公文書館講堂

入場無料

トピックス 「夏姓家譜」寄贈！



平敷令治氏(右)と當山館長

この度、沖縄国際大学学長の平敷令治氏より、「夏姓家譜」(支流)が寄贈されました。この家譜は、七世夏徳庸湛水親方を祖とする十三世までのもので、世系図には「首里之印」が押印された大変貴重なもので

す。公文書館では、早急に修復をし、マイクロ撮影を行って、原本を大切に保存する予定です。

今後も県民の皆様の沖縄関係資料の収集にご協力くださいますようお願い致します。

こんな質問Q!
あんな質問Q!
Q 閲覧室Aから



閲覧室の利用風景

公文書館の閲覧室は広々と見晴らしもよく、静かで快適な環境です。最近特に研究者だけではなく、一般の利用者が増えてきました。この一年間に電話や手紙、ファクシミリ等、県内外から多くの質問が寄せられました。この家譜は、七世

公文書館の閲覧室は広々と見晴らしもよく、静かで快適な環境です。

最近特に研究者だけではなく、一般

の利用者が増えてきました。この一

年間に電話や手紙、ファクシミリ等、県内外から多くの質問が寄せられました。この家譜は、七世

公文書館の閲覧室は広々と見晴らしもよく、静かで快適な環境です。

最近特に研究者だけではなく、一般

Q 戰前の沖縄関係の新聞はありますか？

A 琉球新報の明治二七年十二月二八日、明治二八年四月～大正七年五月、昭和十一年～昭和十三年七月、昭和十五年八月～十二月、沖縄毎日新聞の明治四二年二月～大正二年十二月をマイクロフィルムで揃えています。ただ、若干欠号もありますので、来館前に電話で確認されたほうがよいでしょう。

Q 琉球政府の公報を閲覧し、コピーを取りたいのですが？

A 琉球政府(一九五一年四月一日～一九七二年五月十四日)の公報はすべてマイクロ化されていますので複写も可能です。また、群島政府や民政府の公報は、現在各方面の方々に寄贈を呼びかけております。戦前の沖縄縣公報も完全には揃っていないませんが、複製でご覧になれます。

Q 自分の家に所蔵する家譜(系図)史料の解説をしてくれないか？

A 残念ながら、史料の解説は行っておりませんが、参考資料室には関係図書などを取り揃えてありますので、どうぞ参考にしてください。

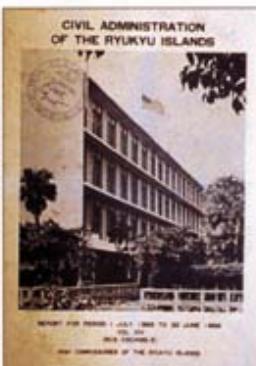
Q 戰前から戦後の各地域の空中写真や地図はありますか？

A 国土地理院より入手し、現在整理を進めているところです。標高や縮図、年代や地名などを特定するのに時間がかかりますので、もう暫くお待ちください。

表紙の写真

CIVIL ADMINISTRATION OF THE RYUKYU ISLANDS 1966 REPORT FOR PERIOD

(琉球列島米国民政府の年次報告書 1965年7月1日～1966年6月30日)



| | | |
|--|-----------------|--------|
| 発行：沖縄県公文書館 | 編集：財團法人沖縄県文化振興会 | 公文書管理部 |
| 〒900-1105 | | |
| 沖縄県南風原町字新川一四八・三 | | |
| 電話 (098) 888-3875 | | |
| FAX (098) 888-3879 | | |
| ホームページ http://www.archives.pref.okinawa.jp | | |